

令和6年度アンケート結果のまとめ

(学校独自の分析、次年度に向けての改善策等)

滋賀県立大津清陵高等学校(通信部)

- 1 アンケートは昨年度と同様、生徒・保護者それぞれから、紙媒体もしくはインターネットで Forms にアクセスして回答いただく方法を採用した。実施については、毎月の郵送物である「学習の案内」と一緒に、締め切り日に余裕をもたせて送付した。しかし、回答数は過半数にも満たなかった。MS アカウントも利用して、全生徒（保護者）に回答を促したが、そもそも学校からのメールをしっかりと読む習慣がついていない生徒が多く、また、登校回数そのものが少ない通信制の特徴から、全生徒・保護者対象に周知することや回答を求めることは難しかった。次年度に向けて、学校 DX 化に弾みをつけている段階であり、データの信憑性をあげて、貴重な評価結果を学校の改善に繋げていくため、昨年12月にリニューアルした学校ホームページを活用するなどして、今後、多くの回答が得られるように工夫する。
- 2 前述のホームページについては、本校通信部教員が中心となって、昼間部・夜間部の担当教員ならびに業者が集まり、年間5回のホームページ作成委員会を開催し、昨年末に完成に漕ぎつけた。生徒や保護者の目線に立って、「見やすさ」と「理解しやすい配置」を重視して構築をおこなった。従前より低評価であった「6 学校図書館」についての項目についても、図書館司書と協力して、蔵書検索サイト（URL）をホームページに表示して利便性を図ったことも奏功して、中間評価「D」よりも、やや回復したものと思われる。ホームページはスマートフォンでも閲覧が可能であるので、今後は、生徒や保護者がホームページ閲覧を習慣づけ、学校からの発信事項を迅速に掴んでいただき、確実な情報共有と的確な評価をしてもらえるよう、対応していきたいと考える。とりわけ、スマートフォンで閲覧可能な点については、令和7年2月6日（木）に開催された学校評議員会でも委員から高く評価していただいた。
- 3 学校評議員会において、「学校関係者評価」を受けた。その集計の結果、11領域23項目のうち11項目でA評価、12項目がB評価となった。本校では、「基礎学力の定着・伸長を図るとともに、『読み解く力を育む』」を重点目標の一つとしている。これに関連し、「2 学習指導」には「基礎・基本の定着を目指した学習指導に努めている」とあり、これに準じた「面接指導」や「レポート作成」について、共に高い評価をいただいたことは、教職員への励みとなると同時に、今後の課題ともなる学校DX化を踏まえた個別最適な学びへの指導に繋がられる。一方でB評価となった「7 保健・安全指導」「8 人権教育」については、スクーリング開催曜日の7時間目に開催している「講座」に加えて、紙媒体や電子媒体資料による時宜を得た情報提供、ポスター、SHRによる教員からの日常の呼びかけ等で、今後、啓発を強めていく。